

## M 氏邸訪問記(2016.4.16)

### 1. はじめに

M 氏邸訪問は昨年(2015)の 11 月以来で、今回の主な目的は、M 氏の種々のチューニング効果の確認と当方のカートリッジを持参して M 氏邸のシステムでどう鳴るかの確認です。

### 2. M 氏邸のシステムの概要

基本的には[昨年 11 月の訪問記](#)の記載内容と同様ですが、foQ シートによる念入りなチューニングと RCA ショートピンの追加および iPhono の電源に iPuffer DC を加えたところが変わっています。当方からの持参品はカートリッジの ZYX R100-EX です。同行の O 氏もいくつかのカートリッジを持参されました。



### 3. M 氏邸のシステムの試聴経過

最初に CD でざっとチューニングの効果を聴かせていただきましたが、楽器の音の硬質感が和らぎ、音に深みが出てきたように思います。ピアノは切れ味はそのままに余

韻も出ていますし、当方から持参したユキ・マニュエラ・ヤンケの CD のストラディヴァリウス「ムンツ」は眼前にリアルに再現されました。

O 氏が持参された Ortofon のモノ用カートリッジ CG25 が不調とのことで M 氏がいろいろ調べましたが、分からず終いで、M 氏の CG25 II をセットしました。この CG25 II で聴くシュタルケルのコダーイは、モノ盤はモノ用カートリッジで聴けというばかりに、シュタルケルの鬼のような形相が目には浮かぶようでした。CG25 II を O 氏が持参された Ortofon Classic GE に替えますと、CG25 II の迫力は後退し、バランスは良いのですが、ごく常識的な音になってしまいました。O 氏はほとんど使っていないという写真の Decca II や FR-9 も持参されており、M 氏の助言を受けておられました。ここでカートリッジを M 氏常用のベンツマイクロ ACE SM に戻してライナー／シカゴの展覧会の画をかけると堂々とした迫力ある演奏が聴かれました。さらに、カートリッジをベンツマイクロから ZYX に替え、再び展覧会の画をかけますと柔らか目の音になりました。弦を聴かせてほしいとリクエストに対して、バルヒェットのラズモフスキー 3 番を聴かせていただきましたが、こういったソースには ZYX が良くあうように感じました。さらに、O 氏が持参されたパイヤールのブランデンブルグの 45 回転盤とケンペ／ウイーンフィルの蝙蝠はちょっと物足りないので、ZYX のカートリッジのせいかなと思いましたが、M 氏は盤の問題だろうということでした。最後に聴かせていただいたのは、再びベンツマイクロに戻して、バックハウス／ウイーンフィルのベートーベンの P 協 3 番でしたが、バックハウスの弾くベーゼンドルファー・インペリアルのは素晴らしいものでした。

#### 4. まとめ

M 氏邸での種々のチューニング効果が確認できました。また、O 氏が、お宝カートリッジを死蔵されていることが分かりましたので、近々に鑑定の機会を持つことにいたします。

以上